

IMF-JC第39回労働リーダーシップコース

時間割(案):

2007年10月30日作成

1月		午前		午後		晩	
		7:30 -8:15	9:30-12:30		14:00-17:00		19:00-21:00
9	水		<b>開校式</b> 10:00-11:00 ・式辞 ・祝辞 ・受講生宣誓	<b>開校講演</b> 11:10-12:10 加藤 JC 議長 「これからの労働運動とリーダー像」	<b>オリエンテーション</b> 13:00-15:00 ・日程 ・運営方法 ・注意事項	<b>グループ形成</b> 15:30-17:00 貿易ゲーム	18:00-19:00 夕食交流会 19:00-20:00 全体ミーティング 20:00-21:00 実行委員会
10	木		<b>ゼミナール①</b> 平田・香川・石田・中田各講師 自己紹介及び各人の課題とその背景の共有化。		<b>戦後の労働運動と労使関係の変遷</b> 鈴木 JC 顧問 戦後労働運動の歩んできた道のりと労使関係を切り口に分析、企業別組合の生い立ちから JC 春闘の変遷、そして労働戦線統一の歴史を振り返ると共に、今後の労働運動の展望について語る。	<b>ファンタジー・グループ</b> 日高神戸学院大学教授 非言語グループフィンガーペインティングなどを通じ、こころ・からだ・コミュニケーションを体験学習する。	
11	金		<b>国際労働運動論</b> 小島 JC 顧問 ①国際労働運動の歴史について、労働運動発祥の時代から現代に到るまでの流れについて、わかりやすく解説。②国際労働運動の意義を認識し、現状の課題を分析し、将来展望を考察する。	<b>組合戦略づくり</b> 神田明治学院大学教授 労働組合の戦略づくりのノウハウを学び、戦略の基本を企業事例も含めて理解し、労働組合の戦略づくりについて理解を深める。また、実践的に組合の戦略策定と実行のためのシナリオを検討する。	—		
12	土		<b>深層心理</b> 樋口京都文教大学学長 職場における人間関係（上司・部下間、同僚間、社員男女間など）の中で、労働組合リーダーとして心得ておくべき、カウンセリングの基礎的知識を学ぶ。	—	—		
13	日	—	—	—	—		
14	月	—	<b>労使関係論</b> 石田同志社大学教授 仕事論を通して労使関係の物の見方、考え方について述べると共に、報酬制度の国際比較を通して今後の報酬制度の改革について考察する。	<b>現代科学技術の課題</b> 政池日本学術振興会ワシントンセンター所長 現代科学を動かしているコンピュータ技術に焦点を当て、コンピュータ技術による新しい科学、コンピュータの発展過程、科学技術と人間の幸福、科学技術と現代社会などについて考察する。	<b>地域福祉論</b> 早川総合人間研究所 所長 超高齢化社会における地域に根をはった生き生きとした生き方について考察する。		

IMF-JC第39回労働リーダーシップコース

15	火	英会話	<p><b>ゼミナール②</b></p> <p>平田・香川・石田・中田各講師</p> <p>各人の課題とその背景の共有化を更に深める</p>	<p><b>労働法</b></p> <p>香川大阪女学院大学教授</p> <p>「労働契約法制定にむけての論点」を中心に、労働契約法制定の論議経過、基本的性格、具体的問題点について考察する。</p>		
16	水	英会話	<p><b>国際協力論</b></p> <p>平田アジアボランティアセンター代表</p> <p>「国際化と国際協力」についてグローバル化とNGOのネットワーク、労働組合に求められる社会貢献活動について考察する。</p>	<p><b>スポーツ交流</b></p> <p>(ボウリング)</p>	交流会	
17	木	—	<p><b>金属労協の運動課題</b></p> <p>若松JC事務局長代行</p> <p>9:00-10:30</p> <p>金属労協の果たすべき役割とその必要性について考察する。</p>	<p><b>コーポレートガバナンスとCSR</b></p> <p>大平明治学院大学教授</p> <p>11:00-12:30</p> <p>日本企業を取り巻く本質的な側面を検討し、労働組合のガバナンス機能について考察する。</p>	<p><b>M&amp;Aと労使関係</b></p> <p>中條同志社大学名誉教授</p> <p>経済のグローバル化の下、産業構造改革が進む中、日本でも企業の再編やM&amp;A(合併・買収)が増加し、大きな問題になっている。今回は、M&amp;Aについて、雇用政策の面から分析すると共に、労使、労働組合の対応について考察する。</p>	<p><b>討論会</b></p> <p>指導：石田教授</p> <p>職場の課題の経験交流。テーマ別の出店方式による討論。</p>
18	金	英会話	<p><b>雇用論</b></p> <p>猪木国際日本文化研究センター教授</p> <p>各国のワークルール等の比較を通して現在の日本の雇用問題を分析するとともに、今後の雇用・労働のあり方と労働組合の役割について考察する。</p>	<p><b>ゼミナール③</b></p> <p>平田・香川・石田・中田各講師</p> <p>解決案の探索：各人が考えた解決案を発表しあい、その実現性、説得性を高めていく。</p>	—	
19	土	比叡山 登山	<p><b>特別講演</b></p> <p>江川三菱重工業㈱ 代表取締役副社長</p> <p>10:30-12:00</p> <p>「経営と人間」をテーマに経営者としての経営哲学、経営理念、経営観などについて懇談的に話を聞く。</p>	—	—	
20	日	—	—	—	—	
21	月	—	<p><b>労働経済論</b></p> <p>中田同志社大学教授</p> <p>「日本の賃金」についての現状と課題について、国際比較など様々な視点から検討を加え、今後の日本の賃金のあり方と賃金制度改革について考察</p>	<p><b>財政論</b></p> <p>跡田慶応大学教授</p> <p>日本の財政問題について、その現状と課題について考察する。特に税構造改革のあり方について展望する。</p>	<p><b>男女共同参画の職場と社会づくり</b></p> <p>三輪世界人権問題研究センター</p> <p>男女とも人間として生き生きと働き、生活していけるような男女共同参画社会や職場をつくるために必要な仕組み・制度づくりと、それを運用する際の意識改革などについて、グループワークを通じて学び合う。</p>	

IMF-JC第39回労働リーダーシップコース

22	火	朝の会	<p><b>ゼミナール④</b> 平田・香川・石田・中田各講師</p> <p>解決案の発表とまとめ：各人がまとめた自分の解決案のレポートを発表しあい、指導教授の下、相互に批判・討議した後、ゼミナール全体の意見・討議の特徴をまとめ、集約する。</p>	<p><b>循環型社会と企業</b> 郡嶋同志社大学教授</p> <p>環境と経済と社会の統合をめざす「環境構造改革論」について述べるとともに、環境型経済の構築とその政策的対応について考察する。</p>	
23	水	英会話	<p><b>統計学</b> 浦坂同志社大学准教授</p> <p>組合員アンケートをより有効に活用するための設問設計の仕方、統計的な分析方法を学ぶ。</p>	<p><b>国際経済論</b> 篠原同志社大学教授</p> <p>「改めてグローバル化の意味を問う」を副題として、中国経済、米国経済との比較を通して、日本経済の構造改革について展望する。</p>	
24	木	英会話	<p><b>哲学</b> シュペ・ネマン同志社大学教授</p> <p>「人間を定義できるのか」を副題とし、現代社会における人間として生きるための基礎として、「人間と社会」「人間と自然」「生命倫理」「環境倫理」などについて考察する。</p>	<p><b>実践国際政治学</b> 袴田青山学院大学教授</p> <p>ロシアの政治経済社会の現状と変化、特に資源・経済の急激な復興を背景にした、ロシアの外交戦略と、日露関係への影響などについて解説する。</p>	
25	金	—	<p><b>ゼミナールまとめ①</b> ゼミに分かれ個人レポートを発表しあう。</p>	<p><b>ゼミナールまとめ②</b> 各ゼミナールまとめの全体発表を行なう。</p>	打ち上げ
26	土		<p><b>閉校式</b> 10:30-</p>	<p><b>昼食・解散</b> 11:30-</p>	

※お茶室体験